

教育講演 6

急性期医療における免疫グロブリン製剤

[教育講演 6・司会のことば]

急性期医療における静注用免疫グロブリン製剤の役割

池淵研二

埼玉医科大学国際医療センター中央検査部／輸血・細胞移植部

本教育講演 6 では免疫グロブリン投与により、補体活性化や炎症性サイトカイン産生が抑制されること、含有される抗 Fas 抗体の作用および ADCC 反応を惹起する作用により各種の急性期病態が鎮静化されることが詳細に解説された。

感染症に対する効果については予測していたが、慢性心不全、拡張型心筋症、急性心筋梗塞、

脳梗塞症例に免疫グロブリンが投与されることで、炎症性サイトカイン産生が抑制され、反対に抗炎症性サイトカイン産生が増加することを介して、原病の鎮静化が図られ対象臓器の機能が改善するというストーリーも紹介していただけた。どこまで適応拡大がなされるか今後の展開を追ってみたいと感じた。